

慶長5年（1600）2月、忠政は美濃兼山7万石から、信州川中島13万7千5百石に転封となり、3月には川中島の海津城（のちの松代城）に入りました。関ヶ原の戦の半年前のことです。

川中島は、かつて忠政の兄長可が領していましたが、天正10年（1582）の本能寺の変に際して長可が撤退した後は、上杉景勝が領していました。しかし、慶長3年（1598）3月、上杉景勝が会津120万石に転封になると、田丸忠昌が海津城に入って4万石を領し、田丸の領する4万石以外の領地は、豊臣家の蔵入地となっていました。

この田丸が、忠政の川中島転封と同時に美濃に転封となっています。両者を入れ替えたように見えるのですが、忠政は大幅な加増であり、一方の田丸は加増のない移動であって、単なる入れ替えではありませんでした。この場合、忠政の加増分はどこから調達したかが問題となりますが、実は忠政へ加増された7万石は、豊臣家の蔵入地が回されたと考えられるのです。そして両者の領地替えは家康の思惑で実施されており、豊臣政権内における家康の専横の現れであるとされています。

しかし『松代町史』掲載の田丸文書では、慶長5年2月27日、五奉行のうち長束正家・増田盛・前田玄以の連名で、川中島の蔵米を忠政に引き渡すよう田丸に対して命じています。これは、同じく奉行の石田三成と浅野長政が大坂を離れていたとこのことで、この3人の連名でも正式な五奉行の命令と同じこととなります。

いずれにしても、田丸と忠政の領地替えが、豊

津山城百聞録

～森忠政の川中島転封～

臣政権内では単に家康の専横ということのみではなく、忠政への遺恨として残されていたのでした。「古今消息集」に載せられている、石田三成の慶長5年8月6日付け真田昌幸あての書状では「羽右近（森忠政）儀ハ格別して遺恨、其故は、御若輩之秀頼様を申掠、新地拝領申事との被仰事二候」とあり、少なくとも石田三成にとっては、豊臣家の蔵入地をかすめ取った者として忠政を恨み重なる敵とする認識があったのです。

川中島転封を受けた忠政は、7万石の加増による家康への恩義と同時に、関ヶ原に向かう大きなうねりの中で、石田三成らの西軍に対して明確に敵対する立場に立つことになったのでした。

※領地が変わること



▲復元整備された松代城風景写真

つやま
広報

1月



編集・発行（毎月10日発行）
津山市企画部市長公室（市役所3階）
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111（代） ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>



十二支最後の「亥」は種の中に閉じ込められた生命力をあらわすそうです。津山をもっともっと好きになってもらえる郷土愛パワーを読者のみなさんに持ってもらうため今年も情報を掘り起こし、発信していきます！（X）



郷土愛は、特別なことではなく日常生活の中から生まれると思います。私も経験がありますが、故郷を離れて思うのは見慣れた景色ばかり。今年は、津山の良さや身近な大切ものを見直す、そんな年にしたいですね。（元）



つ・ぶ・や・き

編集室

明けましておめでとございます。今月の表紙は「竹亥」。編集作業中、このインシタたちが励ましてくれているみたいで、いやされています。今年も読みやすい広報をめざしてがんばりますので、よろしく願います。（e）



11月中のひとの動き

人口	110,953人	（前月比△44）
男	52,940人	（同△20）
女	58,013人	（同△24）
世帯	43,445世帯	（同+1）
転入	224人	転出 257人
出生	96人	死亡 107人
（12月1日現在）		



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください